２０２４年度　文学部聴講生

講義要項

(社会学専攻抜粋)

中央大学　文学部

2024.4 - 2025.3

[1E0021K11101]

科目名: 社会調査の基礎／社会調査法(1)(基礎) **担当教員: 熊本 博之**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 水2 配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-SC1-K111

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:59:57 更新者: AC8199 更新日時: 2024-01-05 21:45:32

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

社会学研究において、理論と実証とは車の両輪の関係にある。このうち実証を行う上で不可欠なのが社会調査である。
この科目では、社会調査の基本について講義する。社会調査が求められる背景、調査手法の発展の歴史、社会調査を実施する際に遵守すべきルールについて学んだ上で、アンケート調査やフィールドワークの実施方法など、具体的な社会調査の手法について講義する。
なおこの講義は社会調査士カリキュラムのA科目「社会調査の基本的事項に関する科目」（必修科目）に該当する。社会調査士資格の取得を目指す学生は必ず履修しなければならない。

科目目的

社会調査の歴史、社会調査を実施する上で気をつけるべき倫理事項について理解すること。
量的調査の仕組みを理解し、アンケートの質問文作成、および仮説構築ができるようになること。
質的調査の仕組みを理解し、具体的な手法について理解すること。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。
・リサーチリテラシーを身につけ、社会調査の結果を読み解くことができるようになること。
・調査仮説をたて、仮説を検証するために必要な質問文と選択肢を作成できるようになること。
・社会調査の社会的な必要性と意義について説明できるようになること。

授業計画と内容

第1回　社会調査を学ぶ意味：リサーチリテラシーの修得
第2回　社会調査の歴史
第3回　社会調査における倫理
第4回　社会調査を企画する①問いをたてる
第5回　社会調査を企画する②仮説をたてる
第6回　調査票の作成①調査の設計
第7回　調査票の作成②質問文と選択肢
第8回　調査票の作成③調査票の実際
第9回　量的調査を理解する①悉皆調査と標本調査
第10回　量的調査を理解する②サンプリングの手法
第11回　量的調査を理解する③質問紙調査とWeb調査
第12回　量的調査を理解する④憲法意識調査に見る世論の実態
第13回　質的調査を理解する①質的調査の技法と目的
第14回　質的調査を理解する②質的調査の実際

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験　50%　講義後にmanabaで小テスト（5点×10回）を実施する。

期末試験	0%	
レポート	30%	調査課題に沿った仮説をたて、仮説を検証するために必要な質問文と選択肢を作成し、レポートとして提出する。
平常点	20%	リアクションペーパーの提出に応じて最大20点で評価し、平常点とする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
✔ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

フィードバックペーパーで質問を受け付け、次回講義で回答する。

授業におけるICTの活用方法

✔ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

授業中にmanabaやGoogleフォームのアンケートを行うことで、社会調査の実際を体感する。

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。配布するレジュメを使用して講義を進める。
参考文献として以下のものを挙げておく。
大谷信介ほか『新・社会調査へのアプローチ－論理と方法』ミネルヴァ書房、2013
岸政彦ほか『質的社会調査の方法－他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2016

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K11201]

科目名: 社会統計学の基礎 **担当教員: 前田 悟志**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 木3 配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-SC1-K112

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 06:59:58 更新者: AD0964 更新日時: 2024-01-08 21:32:28

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する

科目目的

（1）調査票調査とはどういった調査なのか、概要を知ります。
（2）調査票調査の実施・解析に必要な考え方と基礎的統計量について、知識を得ます。
（3）調査票調査を実際に行う技術を習得します。
（4）調査票調査の結果を分析し、解釈する方法を獲得します。

到達目標

調査票調査の基礎を押さえ、かつ実際に仮説と設問を作成し、データの分析ができるようになること

授業計画と内容

１イントロダクション
授業の進行計画および単位取得にかかわる重要な説明

２ 質問紙調査の基礎知識
・相関と因果

３ 仮説とは：デュルケムの自殺論から
・記述統計と推定統計
・クロス表
・カイ２乗検定

４ 分析方法（２変数の関係）
・変数の種類，尺度の種類

５分析方法（２変数の関係）
・散布図，相関係数，疑似相関
・無相関の検定

６対象者選定（サンプリング方法各種）

７仮説の作成

８設問と選択肢の作成

９調査票の作成

１０ 分析デモンストレーション

１１調査の依頼と実施について

１２データのコーディングなどについて

１３まとめ

１４理解度確認テスト

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

復習と宿題を中心にした課題を行います

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	90%	理解度を問うテスト
レポート	0%	
平常点	5%	発言など
その他	5%	仮説，設問，調査票の作成への参加・貢献と，成果物のクオリティ

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

テスト採点後に解説

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
✔ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

仮説の設定，設問作成，調査票の作成においてグループワークを実施

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

統計分析アプリケーションの使用

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教材と資料：主教材・配布資料は指定のクラウドフォルダからダウンロードしてください。
クラウドフォルダのURLはmanabaに貼っておきます.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 地域社会学／地域社会 **担当教員: 新原 道信**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 水5 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K307

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:53 更新者: AA0324 更新日時: 2023-12-23 13:49:05

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

私たちにとって最も身近な場であるはずの「地域社会」は、いかにしてつくられてきたのか、現在どのような問題に直面しているのだろうか？そして、いかにつくりかえられていきうるのだろうか？
この科目では、特定の制度的・物理的な領域としての「地域（the local）」のみならず、人間の営みの場、歴史的な複数の関係の場として構成される「地域社会」／「地域」／「地」（土地・大地）を考えていきます。また、現場になかなか行けない中でも可能なデイリーワークとしてのフィールドワークを含め、人間と社会のうごきをとらえるフィールドワークの視点と方法を構想していきます。

科目目的

この科目の目的は、地域や地域社会そして人間に寄り添い、現実と格闘していくための理論と方法を、参加者それぞれが考えていくことです。そして、生存・生活のためのコミュニティづくり／異質性を含むコミュニティづくり／複数の地域社会の比較研究／自分のなかの歴史と社会をすくいとる／実践の場をともに創ることを始めることです。「地域社会学」以前の「地域社会」／「地域社会」以前の「地域」／「地域」の母体である「地」も含めて考える力を身につけることを目的とします。

到達目標

この科目の到達目標は2つです。
①これまでの地域社会学がどのような現実と格闘し、いかなる理論や方法を生み出してきたのか、基礎的な理解をつくること。
②現代の地域・地域社会における諸問題をみつけ（自分が見過ごしていたこと／社会から見過ごされていたことを自覚し）、新たな問いを立て領域横断的に考える力を身につけること。長期的には、自らの言葉で考え伝え、現代社会における立場の異なる人同士を結ぶメディエイターとなるための力を身につけること。

授業計画と内容

この授業では、全体を序論・本論・結論の構成とします。本論①では、これまでの地域社会学の歩みを概観しながら、いかなる同時代の問題に対していかなる理論と方法が生み出されてきたのかを考えていきます。本論②では、テキストと事前学習を用いながら、現代の地域における人間や社会のうごきを捉えるためのアプローチを考えていきます。本論①の後に、「中間レポート」や各回のコメントペーパーでは、その時点での理解を書きとめてもらい「最終レポート」の基礎とします。本論②の後に、「最終レポート」を提出してもらいます。ここでは、授業を通じて自分の「地域社会そのもの」への理解がどのように変化していったのか、「地域社会そのもの」を捉えるためのフィールドワークをどのように試みたいか、計画・立案をしてもらいます（本論②の際にテキストの事前学習課題を課しますが、毎回の授業への参加を積み重ねてもらうことで最終レポートの負担は少なくなります）。
なお、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」拡大等の社会の状況の変化に即して、必要に応じて内容を組み替えていく予定です。

授業計画
序論： 社会のなかの"地域社会／地域／土地"を考える
第1回 イントロダクション

本論①：土地／地域／地域社会を捉えるための理論と方法
第2回 「地域社会学」とは何か？ 戦後の地域開発と農村・都市社会学の接合
第3回 人々の意識と行動を捉える コミュニティと住民運動
第4回 「地域」／「地域社会」の再編① 人びとの移動とエスニシティ
第5回 「地域」／「地域社会」の再編② 高齢化社会における地域福祉
第6回 地域社会を構成するアクター①：住民組織・学校・自営業者
第7回 地域社会を構成するアクター②：NPO・ボランティア団体・エスニック集団
⇒序論と本論①で理解したことを「中間レポート」として提出する。

本論②：なかなかフィールドに出られない時の方法と実践（人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク）
第8回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク①デイリーワークとしてのフィールドワーク
第9回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク②土地／語りの記録を旅する
第10回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク③国境地域へのフィールドワーク
第11回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク④歴史の中の地域社会としての立川・砂川
第12回 人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク⑤都営大山団地での参与的行為調査より

結論部：人間と社会を捉えるために今後考えたいこと、調査したいことを立案する

第13回　本論②をふりかえる――グループワークによる最終レポートの立案
第14回　総括――土地／地域／地域社会を捉えるための自らの学問をつくり、実践する
⇒ 「中間レポート」に本論②で理解したことを書き加え、「最終レポート」として提出する。

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

①授業時間に解説する範囲で、下記テキストの予習を課す場合がある。
新原道信編著『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』（ミネルヴァ書房，2022年）
②中間および期末レポートの作成と提出。
＊各回のコメントペーパーは、原則授業時間内に提出する。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験，期末試験，レポート，平常点，その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	授業の全体を通じて、2度のレポートの提出を課す。 ①授業の節目で提出を求められる中間レポートにおいて、授業内容をふまえ、論理構成力のある文章を作成する（30%）。 ②個々の事例と調査方法についての組み合わせが持つ意味について考察し、理解を深め、自らの調査研究を立案するかたちで、中間レポートに加筆する形で最終レポートを提出する（40%）。
平常点	30%	授業への実質あるコミットメント（出席・聴講、manabaの閲覧など）、授業内容をふまえたコメントペーパーの提出。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

✔ PBL（課題解決型学習）
✔ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
✔ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
✔ 実習、フィールドワーク
✔ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

この講義では、講義や日常生活というデイリーワーク・フィールドワークのなかで書き（writing in the field, writing while committed）、後に参照して振り返ることができる、「地域社会／地域／地」への理解の「基点（reference points／anchor points）」をつくることを一緒に試みます。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

PC等の端末を各自が使用し、manabaの掲示板やwebexのチャット機能（オンラインの場合）などを活用する。

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

《テキスト》新原道信編著『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』（ミネルヴァ書房，2022年）。
《参考文献》似田貝香門監修、町村敬志他編『地域社会学講座　第１巻 地域社会学の視座と方法』（東信堂，2006年）／古城利明監修、新原道信他編『地域社会学講座　第２巻　グローバリゼーション／ポスト・モダンと地域社会』（東信堂，2006年）／岩崎信彦・矢澤澄子監修、玉野和志他編『地域社会学講座　第３巻 地域社会の政策とガバナンス』（東信堂，2006年）／新原道信編著『"臨場・臨床の智"の工房――国境島嶼と都市公営団地のコミュニティ研究』（中央大学出版部,2019年）。

オフィスアワー

その他特記事項

■担当教員紹介■
　しばらく学内の行政職をしていたため大谷晃先生に2022年度2023年度のご担当をお願いしていました。ひさしぶりの「登板」ですので、はりきって取り組みたいと思います。これまでわたしは、地中海の島サルデーニャと沖縄の比較研究から始まって、地中海・イタリア・ヨーロッパ、大西洋、南米、アジア・太平洋の島々、都市・地域への旅／フィールドワークを、イタリアや日本の仲間と、“ともに（共に／伴って／友として）”してきました。その一方で、日本やイタリアのいくつかのコミュニティやグループ（都市公営団地や社会文化運動団体など）に長期間深くかかわる都市・地域・コミュニティ研究をしてきました。授業のなかでは、これまでの旅／フィールドワークで出会った土地や人々、“生身の社会（living society: city, community and region）”について、少しでもみなさんにお伝えできたらと思います。よろしくお願いします。
　以下は関連urlとドライブです。
　https://sociology.r.chuo-u.ac.jp/member/detail/76
　https://drive.google.com/drive/u/1/folders/1aGeNVyRyhwIpSuxn7kIm0qsrt-JwVEUY
　https://www.milive-plus.net/gakumon170101/univ/
　https://researchmap.jp/read0048538
　https://suiheisen2017.com/category/niihara-michinobu/

参考URL

備考

[1E0021K30801]

科目名: 都市社会学／国際フィールドワーク論／現代社会研究(2)　担当教員: 新原 道信

履修年度: 2024 学期: 後期　開講曜日時限: 水5　配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K308

登録者: admin　登録日時: 2023-10-19 07:01:54 更新者: AA0324　更新日時: 2023-12-23 13:50:20

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この科目では、社会調査の中でもとりわけ質的調査の各手法を学び、現代社会における都市のフィールドワークの理論と方法について講義を行います。授業前半では質的調査の歴史と各手法の概要を学び、授業後半では総合的なフィールドワークの具体的な実践について学びます。

科目目的

この科目の目的は、現代社会における都市・都市社会と地域、人間に寄り添うための質的調査／総合的なフィールドワークの理論と方法を学び、参加者各自が自ら調査を立案し実践する力を身につけることです。調査を通じて、国際的な「都市（the city）」／「都市」以前のまち／「まち」の母体である「地」（土地・大地）も含めて、現実の問題と格闘し、領域横断的に考え、捉える力を身につけることを目的とします。

到達目標

この科目の到達目標は以下の3つです。
①社会調査、とりわけ質的調査に関する知識を深め、調査計画の立案を自ら行い、データを活用・分析する基礎的な力を身につけること。
②これまでの都市社会学／都市におけるフィールドワーク研究がどのような現実と格闘し、いかなる理論や方法を生み出してきたのか、理解を深めること。
③都市の／国際的な質的調査を通じて新たな問いを立てる／自分の言葉で考える力を身につけ、長期的には現代社会の中で多様なアクターのメディエイターとなるために必要な力を身につけること。

授業計画と内容

この科目は、講義形式とグループワークでの議論をはじめとする演習形式を交えて進めていく予定です。授業前半は、とりわけこれまでの都市社会学／都市のフィールドワークに関する理論と方法を学びながら、質的調査の各手法について講義形式を中心に学んでいきます。授業後半は、現代における国際的な都市におけるフィールドワークの実践の紹介を交えながら、グループワークを中心に参加者各自の理解と予備的調査をまとめてもらい、レポートとして提出してもらいます。

授業計画
第1回　講義：ガイダンスと国際フィールドワークの理論的背景と調査方法論
第2回　講義：都市の国際フィールドワークの先行研究についての講義とグループワーク(1)
第3回　講義：都市の国際フィールドワークの先行研究についての講義とグループワーク(2)
第4回　講義と演習：都市の国際フィールドワークの調査計画立案・事前準備(とりわけ質的データ収集の方法)についての講義とグループワーク
第5回　講義と演習：収集した質的データ(記事、文書、映像、音楽、放送など)の分析方法についての講義とグループワーク
第6回　講義と演習：質的調査の認識論、調査における「フィールド」とは何か
第7回　講義と演習：フィールドリサーチの方法についての講義とグループワーク　マニラ
第8回　講義と演習：聞き取り調査の手法についての講義とグループワーク　ニューヨーク・ハーレム
第9回　講義と演習：ドキュメント分析の手法についての講義とグループワーク　立川
第10回　講義と演習：.参与観察の手法についての講義とグループワーク　砂川・都営団地
第11回　グループごとに最終報告(1)（グループごとに選択した対象の予備的調査の分析結果について）
第12回　グループごとに最終報告(2)（グループごとに選択した対象の予備的調査の分析結果について）
第13回　グループごとに最終報告(3)（グループごとに選択した対象の予備的調査の分析結果について）
第14回　総括――各自が行った質的調査の調査報告

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	授業の全体を通じて、2度のレポートの提出を課す。 ①授業の節目で提出を求められる中間レポートにおいて、授業内容をふまえ、論理構成力のある文章を作成する（30%）。 ②個々の事例と調査方法についての組み合わせが持つ意味について考察し、理解を深め、自らの調査研究を立案するかたちで、中間レポートに加筆する形で最終レポートを提出する（40%）。
平常点	30%	授業への実質あるコミットメント（出席・聴講、manabaの閲覧など）、授業内容をふまえたコメントペーパーの提出。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

✔ PBL（課題解決型学習）
✔ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
✔ ディスカッション、ディベート
✔ グループワーク
✔ プレゼンテーション
✔ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

この講義では、講義や日常生活というデイリーワーク・フィールドワークのなかで書き（writing in the field, writing while committed）、後に参照して振り返ることができる、「都市」／「都市」以前の「まち」／「地」への理解の「基点（reference points／anchor points）」をつくることを一緒に試みます。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

PC等の端末を各自が使用し、manabaの掲示板やwebexのチャット機能（オンラインの場合）などを活用する。

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

《テキスト》新原道信編著『人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門』（ミネルヴァ書房，2022年）。
《参考文献》
谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査 プロセス編』（ミネルヴァ書房，2010年）／谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査 技法編』（ミネルヴァ書房，2010年）／佐藤健二『社会調査史のリテラシー――方法を読む社会学的想像力』（新曜社，2010年）／佐藤郁哉『フィールドワークの技法――問いを育てる、仮説を鍛える』（新曜社，2002年）／佐藤郁哉『社会調査の考え方 上・下』（東京大学出版会，2015年）／中筋直哉・五十嵐泰正編著『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる都市社会学』（ミネルヴァ書房，2013年）／松本康編『都市社会学・入門』（有斐閣アルマ，2014年）／新原道信編著『″臨場・臨床の智″の工房――国境島嶼と都市公営団地のコミュニティ研究』（中央大学出版部,2019年）。

オフィスアワー

その他特記事項

■担当教員紹介■
しばらく学内の行政職をしていたため大谷晃先生に2022年度2023年度のご担当をお願いしていました。ひさしぶりの「登板」ですので、はりきって取り組みたいと思います。これまでわたしは、地中海の島サルデーニャと沖縄の比較研究から始まって、地中海・イタリア・ヨーロッパ、大西洋、南米、アジア・太平洋の島々、都市・地域への旅／フィールドワークを、イタリアや日本の仲間と、“ともに（共に／伴って／友として）”してきました。その一方で、日本やイタリアのいくつかのコミュニティやグループ（都市公営団地や社会文化運動団体など）に長期間深くかかわる都市・地域・コミュニティ研究をしてきました。授業のなかでは、これまでの旅／フィールドワークで出会った土地や人々、“生身の社会（living society: city, community and region）”について、少しでもみなさんにお伝えできたらと思います。よろしくお願いします。
以下は関連urlとドライブです。
https://sociology.r.chuo-u.ac.jp/member/detail/76
https://drive.google.com/drive/u/1/folders/1aGeNVyRyhwIpSuxn7kIm0qsrt-JwVEUY
https://www.milive-plus.net/gakumon170101/univ/
https://researchmap.jp/read0048538
https://suiheisen2017.com/category/niihara-michinobu/

参考URL

備考

[1E0021K30901]

科目名: 社会学史(古典)／社会学史A **担当教員: 矢野 善郎**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 金1 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K309

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:55 更新者: AA0328 更新日時: 2024-01-07 10:54:50

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

社会学の歴史を学ぶということは、過去の社会学者の古びた・時代遅れの理屈を学ぶことではありません。過去の偉大な社会学者は、それぞれの時代にそれぞれの社会と対決して、今日の社会をじっくりと反省する問題意識をえるための尽きせぬインスピレーションの源にもなりうるのです。

この講義では、「社会学」という科学が誕生して以来の、各時代・各地の偉大な〈社会学〉の様々な〈パラダイム＝思考の枠組み〉を紹介するとともに、それが登場した時代背景や、他の時代の〈社会学〉、他の科学の分野（経済学・政治学・心理学・哲学 etc.）との影響関係を考えることを通して、私たちの社会そのものがたどってきた展開についても考察することにあります。

全体を通して現代の社会学の大きな見取り図が得られることを目指してもおります（それ故，公務員試験などにも役に立つと聞きます）。

教員としては，究極的には皆さん自身が鵜呑みにしてしまっている社会についての〈パラダイム＝思考の枠組み〉を自分で組み替えていくきっかけにして欲しいと思っております。それ故，３つのやり方で講義に能動的に参加してもらいます。

（１）ときどき講義に関連する課題に答え，小レポートを書いてもらいます。（２）学期末レポートでは，実際に社会学の傑作を読み，社会学者が生きていた時代背景について考えるレポートを書いてもらいます。 （３）講義途中の質問・発言も積極的に歓迎します

科目目的

社会学史の講義を通して，社会学に必須の専門的学識と幅広い教養を身につけるだけでなく，幅広い社会学のパラダイムにふれ複眼的思考を養い，小レポート・期末レポートでは，主体性をもって自らの研究関心にとって重要な社会学者の作品にふれ，自分の意見をまとめるコミュニケーション力を身につけようることを目的とする。

到達目標

社会学に必須の社会学者の論とその背景について専門的学識と幅広い教養を身につけること
幅広い社会学のパラダイムにふれ複眼的思考を養うこと。
主体性をもって自らの研究関心にとって重要な社会学者の作品にふれ，自分の意見をまとめるコミュニケーション力を身につけること

授業計画と内容

1 社会学史の視点：パラダイムとは
2 社会学以前 アリストテレス
3 同 ホッブズ
4 同 アダム・スミス 功利主義
5 同 コント
6 同 トクヴィル
7 同 ヘーゲル
8 同 マルクス
9 同 ダーウィン スペンサー
10 デュルケム１ 社会分業論 方法論
11 デュルケム２ 自殺論
12 デュルケム３ 宗教社会学
13 テンニース ジンメル
14 まとめ 社会学以前から社会学の成立へ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義に関わるプリント，スライドは全て事前に公開します。予習をして下さい。
数回に一度，講義に関連するレポート課題を出します。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	期末レポート
平常点	60%	数回に一度，講義に関連するレポート課題を出します。その提出回数と質により，平常点とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
✔ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

小レポートと，そのフィードバックを行います

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

プリントを配ります。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K31001]

科目名: 社会学史(現代)／社会学史B **担当教員: 矢野 善郎**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 金1 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K310

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:55 更新者: AA0328 更新日時: 2024-01-31 16:46:11

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

社会学の歴史を学ぶということは、過去の社会学者の古びた・時代遅れの理屈を学ぶことではありません。過去の偉大な社会学者は、それぞれの時代にそれぞれの社会と対決して、今日の社会をじっくりと反省する問題意識をえるための尽きせぬインスピレーションの源にもなりうるのです。

この講義では、「社会学」という科学が誕生して以来の、各時代・各地の偉大な〈社会学〉の様々な〈パラダイム＝思考の枠組み〉を紹介するとともに、それが登場した時代背景や、他の時代の〈社会学〉、他の科学の分野（経済学・政治学・心理学・哲学 etc.）との影響関係を考えることを通して、私たちの社会そのものがたどってきた展開についても考察することにあります。

全体を通して現代の社会学の大きな見取り図が得られることを目指してもおります（それ故，公務員試験などにも役に立つと聞きます）。

教員としては，究極的には皆さん自身が鵜呑みにしてしまっている社会についての〈パラダイム＝思考の枠組み〉を自分で組み替えていくきっかけにして欲しいと思っております。それ故，３つのやり方で講義に能動的に参加してもらいます。

（１）ときどき講義に関連する課題に答え，小レポートを書いてもらいます。（２）学期末レポートでは，実際に社会学の傑作を読み，社会学者が生きていた時代背景について考えるレポートを書いてもらいます。 （３）講義途中の質問・発言も積極的に歓迎します

科目目的

社会学史の講義を通して，社会学に必須の専門的学識と幅広い教養を身につけるだけでなく，幅広い社会学のパラダイムにふれ複眼的思考を養い，小レポート・期末レポートでは，主体性をもって自らの研究関心にとって重要な社会学者の作品にふれ，自分の意見をまとめるコミュニケーション力を身につけようることを目的とする。

到達目標

社会学に必須の社会学者の論とその背景について専門的学識と幅広い教養を身につけること
幅広い社会学のパラダイムにふれ複眼的思考を養うこと。
主体性をもって自らの研究関心にとって重要な社会学者の作品にふれ，自分の意見をまとめるコミュニケーション力を身につけること

授業計画と内容

1 ヴェーバー1 理解社会学
2 ヴェーバー2 宗教社会学・支配社会学
3 ヴェーバー3 支配社会学
4 シカゴ学派
5 パレート
6 ウェッブ夫妻
7 初期の日本社会学
8 パーソンズ マートン ラザースフェルト
9 戦後の社会学 近代化論
10 知識社会学 批判社会学
11 シンボリック相互行為論
12 ブルデュー フーコー
13 ハーバーマス エリアス ルーマン / ギデンズ
14 現代社会学から未来の社会学へ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義に関わるプリント，スライドは全て事前に公開します。予習をして下さい。

数回に一度，講義に関連するレポート課題を出します。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	学期末レポート
平常点	60%	数回に一度，講義に関連するレポート課題を出します。その提出回数と質により，平常点とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✔ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

小レポートと，そのフィードバックを行います

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✔ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

すべての回でスライド等で授業理解の補助を図ります。manabaでフィードバックを行います

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

プリントを配ります。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K31101]

科目名: 宗教社会学／宗教 **担当教員: 平野 直子**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 木3 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K311

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:55 更新者: AD0481 更新日時: 2024-01-07 23:36:20

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この講義では、宗教社会学の視点を用い、現代日本社会における広い意味での「宗教」に関するトピックー一新宗教、スピリチュアル、カルト問題、政治と宗教、お墓とお葬式、グローバリゼーション――を見ていく。またそれにより、われわれの生きる社会――「近代社会」と呼ばれる社会の一バージョン――について考察を深めていく。
各回ではテーマごとに講義を行い、それぞれについて基本的な知識や背景を示すとともに、どのような社会学的視点が有効か、何が論点・問題とされているのかを解説していく。

科目目的

現代日本社会において（広い意味での）「宗教」に関わる問題にはどのようなものがあるのを理解した上で、それらに対する社会学的な観点を習得すること、また異なる信条や文化を持つ人々との共生について深く思考し、生じ得る問題についてお互いを尊重した議論ができるようになることを目的とする。

到達目標

・現代日本の「宗教」「宗教文化」に関する問題にどのようなものがあり、自らの日常生活・社会生活にどのように関わっているか／関わりうるかを把握し、それらに対して正確な知識を身につけること。
・上記を社会学の概念や枠組みを用いて論じられるようになること。

授業計画と内容

第1回 オリエンテーション：宗教とは何か／宗教社会学について
第2回 日本社会における宗教の基礎知識
第3回 新宗教と日本の「近代」（１）「近代化」と新宗教
第4回 新宗教と日本の「近代」（２）戦後日本社会と新宗教
第5回 現代日本社会と宗教（１）消費社会における宗教と「スピリチュアル」その１
心理学化／セラピー文化
第6回 現代日本社会と宗教（２）消費社会における宗教と「スピリチュアル」その２
消費社会と「スピリチュアル」
第7回 現代日本社会と宗教（３）宗教と社会活動
第8回 現代日本社会と宗教（４）巡礼文化とツーリズム
第9回 現代日本社会と宗教（５）「民俗宗教」の現在／消費社会と宗教
第10回 現代日本社会と宗教（６）変わりゆく葬儀・墓
第11回 現代日本社会と宗教（７）グローバル化と宗教／世俗化論再考
第12回 「カルト問題」と社会
第13回 現代日本における宗教と政治
第14回 教育における宗教と道徳

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

1.各回の内容は、指定テキストの各章とおおよそ対応している。授業前にアップロードされる予習教材ともに、あらかじめ読んでおくこと。
2.授業終了後、指定された時間までに授業中に示した質問への回答をmanabaの「小テスト」機能にて提出すること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	80%	社会学的な概念や枠組みを用いて、現代日本社会の宗教に関わる諸現象の説明を行うことができるかを評価する。
平常点	20%	毎回の課題の提出状況や内容を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

課題の回答への講評や、質問への回答は、manabaに文書でアップロードする。講義内容にも適宜取り入れる。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
✔ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

受講生の講義内容についての見解や感想を毎回予習教材上で共有することで、ディスカッションに近いやり取りが行われる。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
『宗教と社会のフロンティア―宗教社会学からみる現代日本―』（高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著、勁草書房、2012年）
※その他は、授業内で適宜紹介する

オフィスアワー

その他特記事項

・われわれの生きる社会は「近代社会」という、特有の形式を持った社会の一つです。宗教を社会学的に見ることは、宗教だけでなく「近代社会」がどのようなものか、われわれの社会がどのようなものかを深く考えることにつながります。講義で扱うトピックは身近なものが多いですが、全て上記のような問題意識につながっていることを頭に置きながら受講してください。
・教科書は各トピックについて詳細に知るためには不可欠です。
・本授業はオンデマンド形式のオンライン授業です。毎週時間割上の講義の時間に、講義動画と文書や動画の資料がmanabaの「コースコンテンツ」にアップロードされます。それらを視聴して数日以内に課題の回答をmanaba「小テスト」機能でアップロードすることで、この授業の「出席」となります。
・授業についての連絡はmanabaにおいてなされます。毎回授業前にチェックしてください。特に第1回目の授業前には、必ずmanabaの本授業の「お知らせ」を確認してください。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

[1E0021K31201]

科目名: 文化社会学／文化 **担当教員: 後藤 美緒**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 月1 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K312

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:56 更新者: AD0665 更新日時: 2024-01-04 12:11:12

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

文化現象は、それだけで完全に独立して存在しているわけではありません。古くはレコード、ラジオ、映画をはじめ、現代ではテレビやインターネットといったさまざまなマスメディアと互いに及ぼし合うとともに、私達の日常生活と分かちがたく結びついています。
そしてそれゆえに、想像力の発露であると同時に、統治の手段となることもあります。
それは、国家という枠組みを形成／越え出ること、あるいは集団を組織化／解体、再組織化することがあります。

このような社会的背景、メディアとの関わり、日常生活とのかかわりに注意をはらいつつ、日本が近代化した19世紀初頭から現代までの文化の在り方を考察していきます。とくにこの授業では、参加者とともに「読書」という経験に着目し、文字と声、平時と有事という区分を交差させながら検討することで、私たちが今立っている社会の成り立ちについて考えていきます。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す、「複眼的思考」・「コミュニケーション力」・「主体性」を習得することを目的としています。

到達目標

・現代社会の身近なが文化現象を学問的な視点からとらえ、発生する構造を他者に説明できるようになること（毎回の課題での到達目標）。
・現代社会と過去の出来事の連続性・非連続性（断絶）、差異・共通点について、個々のメディアの特性に留意しながら、説明できるようになること（毎回の課題での到達目標）。
・他者と自己の意見を区別し、自らの考えを整理して、論理的に記述できること（レポートでの到達目標）

授業計画と内容

第1回：イントロダクション：読書と労働という若年層の二つの「悩み」
第2回：文化の作り手は誰か？：限界芸術論
愛3回：映像から考える：映画『舟を編む』の示す統治と開放性
第4回：読書が作る文化：読者共同体
第5回：都市とメディア・リテラシー
第6回：「読書国民」の誕生とその展開
第7回：レポートへの接近（1）：図書館・データベースの使い方
第8回：学生たちの読書実践：社会的属性を支える読書・超える読書
第9回：流行歌の誕生：聴くことをめぐる力学
第10回：ラジオに現れた「漫才」：知識人と大衆文化の接近
第11回：兵士たちの読書経験：戦地の図書館
第12回：兵士たちの読書経験：「慰問袋」のなかの出版物
第13回：全体総括：読者共同体のゆくえ
第14回：レポートへの接近（2）：問い・仮説・文章化

みなさんの関心や授業の進展を考慮して、適宜、順番を変更することがあります。

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

毎回、授業に即して問いを提示するので、授業終了後、その問いの解答（250字以上）を作成すること。
課題は授業内で発表し、提出はmanabaを通しておこなう。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	授業で紹介した事例や概念を応用させ、自分で問いを設定し、論理的に記述できているかどうかを評価します。
平常点	40%	毎回の課題（250字程度）を、授業の内容を踏まえたうえで調査、考察し、期日までに、形式を守って提出されているかどうかで評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
✔ 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストはとくに指定しません（manabaで資料を事前に共有します）。
参考資料については授業中に適宜紹介しますが、以下の資料については全体の参考となるので、目を通しておくとよいでしょう。

B・アンダーソン、白石隆・白石さやか訳、『定本　想像の共同体――ナショナリズムの起源と流行』書籍工房早山、2007年.
佐藤健二、『読書空間の近代』弘文堂、1987年.
キャロリン・マーヴィン、吉見俊哉・水越伸・伊藤昌亮訳『古いメディアが新しかった時―19世紀末社会と電気テクノロジー』、2003年.

オフィスアワー

その他特記事項

・受講を希望している方は必ず初回の授業に参加すること。初回より課題があります。
・資料の配布、課題の提出は授業の形態にかかわらずmanabaを用います。必要に応じてタブレット端末やPCを授業で用いて構いません。
・理解を深めるため、三浦しをん原作『舟を編む』（小説・映画のいずれか）、映画『花束みたいな恋をした』を事前に確認することを期待します。
・連絡先は初回の授業でお伝えします。授業開始前までに質問等で連絡したい場合は、掲示板を使用してください。

参考URL

備考

[1E0021K31301]

科目名: 家族社会学／家族 **担当教員: 山田 昌弘**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 金2 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K313

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:56 更新者: AA0825 更新日時: 2023-11-09 17:29:15

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

「現代家族の構造転換」について講義する。家族は、今、大きな構造転換期にある。夫は仕事、妻は主に家事で豊かさをめざすという戦後家族モデルは、工業社会で夫の収入が安定していた時代に、適合的な家族モデルだった。それが、ポスト工業社会の到来で経済が不安定化する。そして、家族の領域にも個人化の波が押し寄せ、不安定化すると共に、従来のモデルが揺らぎだしている。その様相を解明する。１．家族定義論の射程「ペットは家族か」という問いかけを出発点に、家族は、選択不可能、解消困難な関係であることを説明し、それが家族への欲望につながることを示す。２．近代社会の構造転換という視点近代家族における家族の二つの役割を示し、うち、家族の個人的機能、社会的機能、その不安定性について論じる。３．戦後家族モデルの形成戦後家族モデルがたいへんうまく機能した条件について考察する。４．戦後家族モデルの行き詰まり戦後家族モデルが行き詰まり、１９９８年以降、解体の危機にあることを論じる。

科目目的

現代社会における様々な家族現象を、社会学的に分析できる力をつける。
現代日本社会に生じている家族の問題現象を読み解く力をつける。
将来の家族生活を営むに当たって、注意すべき点を知る。

到達目標

現代社会における様々な家族にかかわる問題現象を理解し、社会学的に分析できるよう、様々な観点を身につける。
現代家族に起きている現象を歴史的文脈の中で理解できるようにする。
現将来の家族生活を営むに当たって、注意すべき点を理解する。

授業計画と内容

１．リアリストは嫌われる－家族を社会学すること
２．家族ペットと児童虐待
３．近代家族の変容　選択肢の拡大をめぐって
４．婚活、おひとりさま、そして、無縁社会
５．近代社会の中での家族の位置
６．近代家族の特徴
７．存在論的不安
８．生活保障としての家族

９．愛情と生活保障の結合
１０．日本における近代家族の形成

１１．戦後家族モデル
１２．戦後家族モデルの微修正
１３．近代社会の構造転換
１４．近代社会の行き詰まりと新しい家族形態の試み

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。

・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	70%	授業内容を理解していること。 論理的に筋が通っていること。 独自の視点をもって、回答していること。
レポート	20%	授業内容を踏まえていること 課題図書を読み込んでいること 独自の視点をもって論じていること
平常点	10%	アンケートの回答による参加度
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

中間レポート、試験、どちらかでも未提出のものは、採点の対象としない。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

✔ PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

レジュメをmanabaで配布する。
中間レポート課題図書「候補」（未定　うち1冊）
山田昌弘『少子社会日本』岩波新書
山田昌弘『日本はなぜ少子化対策に失敗したのか』光文社新書
山田昌弘『新型格差社会』朝日新聞出版

参考文献
山田昌弘『迷走する家族』有斐閣

オフィスアワー

その他特記事項

レポート課題図書を1冊購入することを求める。

参考URL

備考

[1E0021K31501]

科目名: 歴史社会学／社会政策／現代社会研究(7) **担当教員: 天田 城介**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 火4 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K315

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:56 更新者: AA1538 更新日時: 2024-01-07 22:45:52

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✔ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

超高齢社会／人口減少社会／ポスト経済成長時代において立ち現れている諸問題について経験的データをもとに的確に理解すると同時に、老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、未曾有の超高齢社会のもとでの新たな生存保障システムを設計し、それを実現可能とする社会を歴史社会学的に構想するものとする。

科目目的

超高齢社会において立ち現れている諸問題――少子高齢化、人口減少、労働者人口の減少／年金生活者の増大、世代間関係の変容、貧困の変容（女性や子どもの貧困）、生活困窮層の増大、生存保障システムの変容、戦後日本型分配システムの機能不全など――について経験的データをもとに的確に理解すると同時に、老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、未曾有の超高齢社会のもとでの生存保障システムを設計し、それを実現可能とする社会を社会学的に構想するものとする。

戦前から戦後、そして現在にいたるまでの歴史的変容をダイナミックに捉えたうえで、「超高齢社会／人口減少社会／ポスト経済成長時代」と呼ばれる今日の社会において立ち現れている諸問題がいかに形作られてきたのかを分析する。

到達目標

①ポスト経済成長時代における超高齢社会／人口減少社会において立ち現れている諸問題について経験的データをもとに的確に理解することができる。
②ポスト経済成長時代における超高齢社会／人口減少社会がいかなる歴史的・時代的文脈のもとで変容しているのかについて歴史社会学の視点から科学的に分析することができる。
③老いや高齢化をめぐる社会の変化の歴史的ダイナミズムを析出したうえで、ポスト経済成長時代における超高齢社会／人口減少社会のもとでの新たな社会を構想することができる。

授業計画と内容

第01回 超高齢社会／人口減少社会の社会学・1
第02回 超高齢社会／人口減少社会の社会学・2
第03回 ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会の社会学・1
第04回 ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会の社会学・2
第05回 生存の歴史社会学・1――老いの現代史 明治～現在
第06回 生存の歴史社会学・2――戦後日本型生存保障システム
第07回 地域間再配分の現在・1――戦後日本型生存保障システムからの脱却
第08回 地域間再配分の現在・2――戦後日本型生存保障システムからの脱却
第09回 世代間関係をめぐる現在――団塊世代の世代間関係を中心に
第10回 「女性の貧困」の歴史社会学
第11回 少子化／人口減少のもとでの社会構想
第12回 ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会における社会構想・1
第13回 ポスト経済成長時代の超高齢社会／人口減少社会における社会構想・2

第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✔ 授業終了後の課題提出
- ✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業前にその前の回に配布した資料やレジュメに必ず目を通した上で出席すること。また、授業の最後に提示する課題に必ず取り組むこと。加えて、授業で紹介した参考文献等も積極的に読み込むようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	85%	小レポート（45%）、学期末レポート（40%）。授業終了後の指定日時までに提出する小レポートを期間中3回実施します。学期末レポートは4,000字以上のものになります。
平常点	15%	コメント・ペーパーなどを平常点（15%）とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

小レポート（45%）、学期末レポート（40%）、平常点（15%）をスコア化して、厳正に評価します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✔ ディスカッション、ディベート
- ✔ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

- ✔ クリッカー
- ✔ タブレット端末
- ✔ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

manaba掲示板、C-plusのメール等で情報共有・補助的な議論を行います。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業内容については資料やレジュメを毎回配布しますので、テキストは使用しません。参考文献は毎回レジュメ等で示します。

オフィスアワー

その他特記事項

なし

参考URL

備考

[1E0021K31601]

科目名: 社会階層論／社会階層 **担当教員: 高見 具広**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 木5 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K316

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:56 更新者: AD0154 更新日時: 2024-01-09 15:09:48

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

社会階層論の内容を講義します。現代でも、様々な格差や不平等があり、人々の関心を引きつけています。では、社会には実際どのような格差があり、なぜ問題なのでしょうか。社会学は伝統的に、社会を階層構造の観点から扱い、格差・不平等を議論してきました。本講義では、経済的格差、職業階層、世代間移動、ジェンダー格差、出身階層と学歴形成といった、社会階層論の主要なトピックを扱うことで、社会階層論の理論と実際について深く理解することを目指します。

科目目的

社会階層論の視点から、現代日本の社会状況や問題点について理解し、問題意識を深めること。

到達目標

社会に存在する様々な格差や不平等について、その背景・原因を含めて他者に説明できるようになること。また、格差・不平等に関する社会の課題を、社会階層論の観点から深く理解し、解決する方策を自ら提案できるようになること。

授業計画と内容

第1回 イントロダクション
第2回 経済的格差と貧困
第3回 正規／非正規雇用と賃金格差
第4回 職業階層
第5回 世代間移動
第6回 職業キャリアにおける男女格差
第7回 ライフコース・ライフスタイルの多様性と格差
第8回 学歴社会を考える
第9回 出身階層による学歴格差
第10回 能力主義社会における環境要因
第11回 地域間格差
第12回 社会意識から階層構造を考える
第13回 追加的論点
第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業レジュメをもとに復習を行うほか、授業時間内に紹介する文献やデータについて、可能な限り各自でも学習してください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	学修内容をふまえ、自らの思索が論理的・説得的に書かれているかを評価します。
レポート	0%	
平常点	40%	対面授業におけるコメントペーパーの提出状況と内容から評価します。（提出状況が極端に悪い場合は、単位を与えないので注意すること）

その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

✔ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当教員は、独立行政法人労働政策研究・研修機構（JILPT）において、国の労働政策に関わる調査研究に携わっている。

実務経験に関連する授業内容

JILPTで携わっている調査研究では、社会の格差・不平等に関わるテーマを多く扱っている。例えば、働き方の格差、ジェンダー格差、地域間格差などがある。こうした調査研究について、講義中に積極的に紹介したい。

テキスト・参考文献等

特定の教科書は指定せず、レジュメをもとに進めます。

なお、社会階層論の全体像を理解するのに適した書籍として、以下の文献を薦めます。
平沢和司（2021）『格差の社会学入門［第2版］―学歴と階層から考える』北海道大学出版会.
原純輔・盛山和夫（1999）『社会階層―豊かさの中の不平等』東京大学出版会.

オフィスアワー

その他特記事項

社会階層論が扱う格差・不平等は、近年ますます重要性を増しているテーマであり、難しい課題も多いですが、意欲ある受講生を歓迎したい。

参考URL

備考

[1E0021K31701]

科目名: 産業・労働の社会学／産業・労働／現代社会研究(4) **担当教員: 田島 博実**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 木4 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K317

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:57 更新者: AB3464 更新日時: 2024-01-10 22:17:21

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

⑴産業社会の変動（高度産業化、脱工業化、情報化、サービス経済化、グローバル化）と、経済成長や景気変動、雇用情勢の動向を把握します。⑵企業などの組織における雇用と人的資源管理の仕組みについて、「日本的経営」「日本型雇用システム」の観点から考察します。⑶雇用・就業の実態、勤労者の働き方の現状と課題を考えます。以上の3点を中心に、現代の産業と企業、雇用・就業の実例（映像等）を示して、できるだけ具体的な考察を行います。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す、産業社会を理解するための専門的学識や教養、社会的課題に対して複眼的かつ柔軟に考察する思考力、主体的に学び続ける姿勢を養おうとするものです。

到達目標

この科目は、第1に、現実の経済環境や産業社会に向き合い、理解するための教養や思考力を身につけることを目的とするものです。第2に、雇用・労働問題という現代のクリティカルな課題に対して、複眼的かつ柔軟な観点からアプローチし考察できるようにすることを目指します。第3に、卒業後の働き方、社会生活において、企業等の組織と主体的に関わり、学び続ける姿勢を養おうとするものです。

授業計画と内容

1. オリエンテーション、産業・労働研究の要点、テキスト・参考文献
2. 産業社会の成立と変動、高度産業化、脱工業化、情報化、サービス経済化の進展
3. 技術革新・情報化・デジタル化と、産業構造、就業構造、勤労者の働き方の変化
4. 「日本的経営」「日本型雇用システム」の成立とその背景
5. 長期安定雇用と企業（職場）コミュニティの形成
6. 雇用調整と長期雇用システムの動揺－組織と個人の関係の変化
7. 人事処遇・報酬の原理―年功制の確立と能力主義（職能資格制度）への移行
8. 能力主義の新展開－コンピテンシー評価、成果主義、職務等級制度
9. 人材育成（教育訓練）の方法と職業能力の開発・向上
10. キャリア形成と勤労者の職業人生設計（キャリアデザイン）
11. ダイバーシティ・マネジメントと女性就業、男女雇用機会均等政策
12. 雇用・就業形態の多様化と非正規雇用の働き方、労働問題
13. 労働時間制度の変化と多様化、長時間労働問題、働き方改革の課題
14. 今後の企業組織と人的資源管理の展望、方向性

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	講義・授業の主要テーマに関するまとめと考察。学習内容の理解、課題に対する考察、論理的展開を評価基準とします。
レポート	30%	講義・授業の内容の検討、考察に関するレポート課題の提出。
平常点	10%	講義・授業の内容に関する感想または疑問点の提出。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

授業の参加、態度に関する評価を考慮する場合があります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

- ✔ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当教員は民間のシンクタンク・調査研究機関（産業社会研究センター、雇用開発センター）で、労働政策、労働問題の主要テーマに関するリサーチおよびコンサルテーションに携わってきました。

実務経験に関連する授業内容

労働政策、労働問題の主要研究テーマとして、日本企業の雇用システム、人事処遇制度、雇用調整と労働移動、高齢者雇用などを扱っており、これらの経験や知見を活かした講義・授業を行います。

テキスト・参考文献等

テキストとして、時井聰・田島博実編著『現代の企業組織と人間』学文社、2009年、を使用します。
参考文献として、小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充『「働くこと」を社会学する　産業・労働社会学』有斐閣、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学　改訂版』有斐閣、宮本又郎他『日本経営史（新版）』有斐閣、橋本寿朗他『現代日本経済』有斐閣、を挙げますあげます。

オフィスアワー

その他特記事項

授業態度として、文献（テキスト）、レジュメ、資料の精読とともに、口頭の説明を筆記、理解して、自分の学習ノートを作成することが望ましいです。
また、授業中のスマホの使用、私語などを注意することがあります。
教員に質問や連絡をしたい場合は、田島博実のメールアドレス（tajihiro@white.plala.or.jp)またはmanabaの掲示板でメッセージを伝えてください。

参考URL

備考

[1E0021K31801]

科目名: 社会問題／現代社会研究(9) **担当教員: 天田 城介**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 火3 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K318

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:57 更新者: AA1538 更新日時: 2024-01-07 22:46:32

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

現代社会における障害や病いをめぐる諸問題／諸現象を具体的に読み解きながら、障害や病いの社会学的含意を考察しつつ、障害や病いをめぐる社会制度／社会システムについて社会学的に分析し、ありうべき社会をダイナミックに構想する。

科目目的

現代社会における障害や病いをめぐって生じているさまざまな現実を社会学の視点から解読することを目的とする。私たちの社会において生じている障害や病いをめぐる諸問題／諸現象がなにゆえ生じているのかを社会学の視点から読み解き、私たちの社会における差別・不平等を批判的に捉えることができることが最終的な到達目標となる。

到達目標

①現代社会における障害や病いをめぐって生じているさまざまな現実を経験的データをもとに的確に理解することができる。
②私たちの社会において生じている障害や病いをめぐる諸問題／諸現象がなにゆえ生じているのかを社会学の視点から分析することができる。
③私たちの社会における差別・不平等・排除を社会学の視点から批判的に捉えることができる。

授業計画と内容

第1回 障害をめぐる社会学
第2回 当事者たちの学問のせり出し
第3回 障害者たちの社会運動の歴史・1
第4回 障害者たちの社会運動の歴史・2
第5回 当事者たちが語る自らの世界・1
第6回 当事者たちが語る自らの世界・2
第7回 当事者たちが自らの世界を語ることの意味・1
第8回 当事者たちが自らの世界を語ることの意味・2
第9回 障害学の問い・1――分配する国家
第10回 障害学の問い・2――優生学／優生思想
第11回 優生学／優生思想と闘うことを考える・1
第12回 優生学／優生思想と闘うことを考える・2
第13回 社会構想の社会学
第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業前にその前の回に配布した資料やレジュメに必ず目を通した上で出席すること。また、授業の最後に提示する課題に必ず取り組むこと。加えて、授業で紹介した参考文献等も積極的に読み込むようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%
期末試験 0%
レポート 85% 小レポート（45%）＋学期末レポート（40%）で評価します。授業終了後の指定日時までに提出する小レポートを期間中3～5回実施します。学期末レポートは4,000字以上のものになります。

平常点　　15%　コメント・ペーパーなどを平常点（15%）とします。
その他　　0%

成績評価の方法・基準（備考）

小レポート（45%）、学期末レポート（40%）、平常点（15%）をスコア化して、厳正に評価します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✔ ディスカッション、ディベート
- ✔ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✔ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業内容については資料やレジュメを毎回配布しますので、テキストは使用しません。参考文献は毎回レジュメ等で示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K31901]

科目名: 応用社会調査法(量的)／社会調査法(2)(量的調査) **担当教員: 野宮 大志郎**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 火3 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K319

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:57 更新者: AA1539 更新日時: 2024-01-09 15:01:10

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本授業では、中級以上の統計解析手法を学ぶ意思のある学生のための授業です。本授業では、下記の（１）から（４）を学びます。まず、（１）量的調査の基幹的な考え方を確認します。次に（2）多様な量的解析手法について学びます。それぞれの手法の特徴、またそれぞれの手法でできることと出来ないことを理解します。さらに（３）重回帰分析を、その考え方と原理から説明し、その後、実際に統計ソフトを使っての解析作業と解析結果の読み方までを学習します。最後に（４）重回帰分析を用いて、受講生各自が統計解析論文を作成して、授業を終わります。

科目目的

中級程度の解析技法について、その原理や考え方を理解し、あわせて、実際に基本的な解析手法（重回帰分析）をマスターする。具体的には、（１）量的手法で出来ることと出来ないことを峻別する力を養う。（２）多様な量的手法について知識を持つ。（３）重回帰分析の考え方と原理を理解し、同時に実際に重回帰分析ができるようになる、（４）重回帰分析を用いたレポートが書けるようになることが、この科目の目的である。

到達目標

本科目での到達目標は、専門的学識の獲得、幅広い教養、主体性を受講生各自が身につけることが到達目標です。まずは専門的知識としての中級程度の統計的手法の獲得を通して、量的解析手法を理解し駆使できるようになります。次に、幅広い教養の獲得の一環として、多様な多変量解析の手法を学習することで、多変量解析を用いた論文や書籍の内容的に理解できるようなることを目指します。最後に、最終論文の問いや課題を設定し、自らが進んでデータを入手し、学習した解析手法での分析に至るまで、受講生各自の主体的な活動で行います。

授業計画と内容

I. イントロダクション
  1. クラス・オリエンテーションと簡単なアンケート
  2. 社会調査の基本言語と調査の流れを理解する
［宿題］：社会調査法week２宿題リーディングを読み、まとめ（A4で2枚以内）を提出

II. 量的調査でどんなことができるの？
  3. 科学的な推論をする：原因を追い詰める（ガンの原因の追究）
［宿題］：社会調査法week３宿題リーディングを読み、まとめ（A4で2枚以内）を提出
  4. 数字を使って理論構築する：単純な数字から壮大な理論を作る(デュルケーム)
  5. マクロデータを利用する：日米で何がどう違うか、因子分析を用いて国際比較をする
  6. ミクロな世界を観察する：ネットワーク分析を用いて人々の心に迫る
     （もしくは、因子分析を使った方法の紹介）

III. 実際に分析をしてみよう：重回帰分析プラクティス（ここから実習授業,パソコン教室へ移動）
  7. 重回帰分析の考え方：単回帰と重回帰、複数の因果関係
  8. 重回帰分析に用いる概念道具：相関係数、問い、理論、仮説、操作化
［宿題］：各自の理論・仮説・操作化をA4で1枚提出
  9. 重回帰分析の実際：分析の基本
     ・各自の理論・仮説・操作化の見直しと、分析の基本を学ぶ
  10. 重回帰分析の実際：問題処理の技能を身につける
     ・重回帰分析の問題点と対処法を理解する：多重共線性と外れ値
     ・分析の技能の幅をひろげる。
IV. 他の多変量解析方法を知る
  11. パス解析
  12 ログリニア分析
  13. ロジスティック回帰分析
  14. 総合演習（重回帰分析レポート提出）

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

✔ 授業終了後の課題提出

その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

ほぼ毎回、リーディング課題に加えて、宿題レポートの提出が数回あります。授業の後半には、毎週、授業外でおこなう作業を宿題として課します。授業最終回に提出する重回帰分析を用いた解析レポートは、授業外での作業課題となります。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	30%	宿題課題の提出
期末試験	50%	学期末最終レポート
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	20%	授業中の質問やコメントなど、授業へのコミットメント

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
✔ その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

✔ PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
✔ グループワーク
プレゼンテーション
✔ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

最終レポートに向けた学習は、受講生各自が自ら課題を見つけ、問いを立て、データを取り、分析・解釈して執筆するものです。授業では、適宜、グループでの協議を指示します。また、後半の重回帰分析を習得する授業は、パソコン教室を使っての実習授業となります。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

manabaを利用したフィードバックを行います。また、オンラインコミュニケーションを通して、授業外の学習支援、アドバイス提供などを行います。

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教材と資料：授業の都度、指示する。
参考書：野宮大志郎編著『SASプログラミングの基礎』ハーベスト社

オフィスアワー

その他特記事項

（１）本授業では、４回以上欠席すると最終のレポート論文を書く資格がなくなります（遅刻２回で欠席１回となります）。ご注意ください。
（２）授業は、文学部の実習科目「社会調査実習」をすでに受講されて単位を取っておられる方、または基礎的な統計量（相関係数やカイ二乗など）や統計ソフトを使っての処理の仕方を習得しておられる方を対象とした授業です。ご自身の技能や知識のレベルで本授業を履修可能かどうか迷う方は、ご相談ください。

参考URL

備考

[1E0021K32001]

科目名: 応用社会調査法(質的)／社会調査法(3)(質的調査) **担当教員: 門林 道子**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 水2 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K320

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:58 更新者: AD1418 更新日時: 2024-01-09 23:36:00

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

社会調査とは社会の仕組みや人々の生活の実際を把握するためにとられてきた多様なアプローチの集成である。この授業ではそのなかでもとくに統計的、数量的方法によらない質的(調査社会) 調査、とりわけ昨今、「人間」や「生活」に接近する方法として社会学や社会福祉学、文化人類学のみならず医学や看護学といった臨床分野においても学問的活用が広がってるライフストーリーやライフヒストリー研究に関する基本的な考え方や方法をはじめ、さまざまな質的データの収集や分析方法について学習することを目的としている。参与観察法やインタビュー等フィールドワークの方法、ドキュメント分析や内容分析、会話分析、グラウンデッド・セオリー等を多角的に学ぶ。担当者自身が長年関わってきた「闘病記の社会学的研究」に関して行ってきたがん闘病記のドキュメント分析、著者や関係者へのインタビュー調査、そこから発展した国内外のホスピス・緩和ケアの比較社会学的研究や「書く」ことをケアに、を目指して行った臨床応用の調査研究等フィールドワークについても具体的に取り上げ、調査法や倫理的問題についても解説する。短時間のライフストーリーインタビューの実践やトランスクリプトの作成、調査計画の立案なども取り入れたい。

科目目的

この授業では、質的研究とは何かを理解したうえで、その方法論を修得し、ゼミや卒論、等への活用をはじめ、自らがリサーチ・クエスチョンを設定し、研究デザインを選択、データ収集を行って質的分析を進め考察、執筆できるような力の養成を目指す。

到達目標

1．質的研究とはなにかを理解すること
2．質的調査の方法論を論じることができること
3．質的調査の方法について、リサーチ・クエスチョンの設定、研究デザイン、データ収集、データ分析、理論化とモデル化、質的研究論文の執筆様式などから説明できること
4．質的調査について、記録とコード化、主観と客観、サンプルに対する操作的定義、一般化可能性から説明できること
5. 質的調査の研究倫理について、人間や人々の多様な生活への関心をもち、人権の理解を深め、調査者等の基本的な考え方や責務を理解し、説明できること

授業計画と内容

第1回 授業のイントロダクション、社会調査法について、アイスブレイク
第2回 質的(社会) 調査：「質的」とはなにか
第3回 質的研究の意義・特徴・歴史
第4回 質的調査：方法と方法論（1）
第5回 質t的調査：方法と方法論（2）
第6回 質的調査の方法：質的データの収集と分析―フィールドワーク（参与観察法）
第7回 質的調査の方法：質的データの収集と分析―インタビュー法
第8回 質的調査の進め方：ライフストーリーとライフヒストリー①
第9回 質的調査の進め方：―ライフストーリーとライフヒストリー②
第10回 質的調査の進め方：ーライフストーリー２つのアプローチ
第11回 質的調査における研究倫理①ラポール・同意と説明、プライバシーと個人保護、倫理規程
第12回 質的調査における研究倫理②研究倫理をめぐる困難、論文の作成、ライフストーリー・インタビューの実践とトランスクリプトの作成
第13回 質的調査の応用：ライフストーリーインタビュー計画の立案
第14回 小テストとインタビュー計画の発表

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

事前学修：授業前に配布された文献を読んでくる、課題を考えてくるなどの予習を行う（週１時間）

事後学修：授業後に学習した社会調査や質的研究に関わる用語等を復習する、自宅課題であるレポート等に取り組み完成させる（週３時間）

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	30%	授業で学習した質的調査に関わる重要な用語、方法論等を理解しているかどうかの確認のために、事前に知らせたうえで確認小テストを1回以上、授業中、あるいは最終回に行う。
期末試験	0%	
レポート	40%	期末試験にかわるレポートの提出：ライフストーリーやライフヒストリー、エスノグラフィー関連の文献を選び、その分析等を通して質的研究としての意義等をレポートにまとめる。
平常点	30%	授業中、あるいは自宅課題として提出を求めるリアクションペーパーや小レポートについて理解度等を評価する
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
✔ プレゼンテーション
✔ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

観察法やインタビュー等で、短時間の実践やフィールドワーク、発表等を取り入れる。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業はテキストなどは使用せず、毎回レジュメを作成、資料を準備しmanabaにアップする。授業中に配布することも考えている。

「参考文献」
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋 『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN:9784623066544

谷富夫・芦田徹郎 編著 『よくわかる質的社会調査 技法編』 ミネルヴァ書房 2009 ISBN:9784623052738

谷富夫・山本務 編著 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』 ミネルヴァ書房 2010

ISBN:9784623058440
伊藤哲司 『新版　みる きく しらべる かく　かんがえる―対話としての質的研究』 北樹出版　2009　ISBN:9784779306983
桜井厚 『インタビューの社会学―ライフストーリーの聞き方』 せりか書房　2002　ISBN:9784796702379
小林多寿子　編著 『ライフストーリー・ガイドブック―ひとがひとに会うために』 嵯峨野書院　2010　ISBN:9784782305096
蘭由岐子 『「病いの経験」を聞き取る―ハンセン病者のライフストーリー「新版」』 生活書院　2017　ISBN:9784865000641
門林道子 『生きる力の源に―がん闘病記の社会学』 青海社　2011　ISBN:9784902249576

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K32101]

科目名: 現代社会研究／現代社会研究(1) **担当教員: 門林 道子**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 水1 配当年次: 2～4年次配当

科目ナンバー: LE-SC2-K321

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:58 更新者: AD1418 更新日時: 2024-01-09 11:13:34

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本授業では、前半においては社会調査によって資料やデータを収集し、分析可能なかたちに整理していく具体的な方法を解説する。調査目的、調査方法の決め方、調査企画や設計、対象者の選定におけるサンプリング等の方法、調査票や質問肢等の作成、インタビューの仕方など調査の実施方法、コーディング等の調査データの整理について学習する。
さらに後半においては、社会調査（とくに質的調査）における研究倫理について、調査者と調査（研究）協力者（対象者）とのラポールの形成や、個人情報保護の観点から対象者保護について、倫理審査や学会等で設けられている倫理規程、アウトプット方法における葛藤等、参考事例とともに授業担当者自身が行ってきた「がん闘病記の社会学的研究」や終末期医療に関する調査等で生じた倫理的問題についてともに考えていく機会としたい。
必ずしも下記の授業計画通りに進行するとは限らず、順が前後することもありうる。

科目目的

本授業は、社会調査によって資料やデータを収集し、分析可能な形に整理していく具体的な方法を解説することを目的とする。具体的には、調査の目的と実施環境に応じた適切な調査方法、調査の企画や対象設定、調査項目の具体化や、調査の実施、調査データの整理、分析等各段階における社会調査の一連の過程、方法等を学び、理解する調査の過程で生じる倫理的な問題をも理解することを目指す。

到達目標

1．（量的・質t的）社会調査の基本的な考え方を理解できる
2．社会調査の方法を理解できる
3．社会調査の基本的な技法を修得する
4．社会調査の研究倫理について、調査者等の基本的な考え方や責務を理解し説明できること

授業計画と内容

1 授業の進め方について：社会調査法について
2 社会調査の1倫理と問題意識
3 質的研究の方法と手順
4 エスノグラフィーの誕生と発展の歴史、フィールドワーク
5 調査目的・調査方法と調査方法の決め方
6 社会調査の流れ、テーマの決定と仮説の構成
7 標本調査とサンプリング
8 調査票の作成と実施（質問文の作り方、インタビューの仕方など）
9 調査データの整理（ワーディング、エディティング、データクリーニングなど）
10 データ分析（コーディングなど）
11 質的調査：ライフストーリー研究について
12 質的調査における研究倫理（1）ラポール、同意と説明、参与観察と距離、倫理的ジレンマ
13 質的調査における研究倫理（2）研究の透明性・公開性と対象者保護の葛藤
14 まとめ―複眼的視点からの社会調査

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

事前学修：授業前に提示された課題や、文献などの配布物があればそれを考えたり読んでくること（週1時間）
事後学修：授業後に学習した社会調査法に関する重要な用語等を復習する。自宅課題であるレポート等に取り組み提出できるよう、完成させてくること（週２時間）

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	30%	授業で学習した社会調査法に関する内容や用語等を理解しているかどうかの確認のために、事前に知らせたうえで確認小テストを１回以上授業中に行う。
期末試験	0%	
レポート	40%	期末試験に代わるレポートの提出：研究課題を選んで社会調査を実施する際の調査方法や対象者選択、分析方法等について論述する（予定）。これについて、課題達成度、概念理解度、文章構成の３点から評価する。
平常点	30%	授業中、あるいは自宅課題として提出を求めるリアクションペーパーや小レポートについて理解度等を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
✔ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

《テキスト》特定のテキストなどは使用せず、毎回レジュメを作成、時には資料を準備しmanaba
にアップする。授業においてこれらを配布することも考えている。
《参考文献》
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋 『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』ミネルヴァ書房
2013 ISBN:9784623066544

佐藤郁哉 『フィールドワークの技法―問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社 2002
ISBN:9784788507883

谷富夫・芦田徹郎 編著 『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房 2009 ISBN:9784623052738

谷富夫・山本務 編著 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房 2010
ISBN:9784623058440

篠原清夫・清水強志・榎本環・大矢根淳 『社会調査の基礎―社会調査士A・B・C・D科目対応』2010

ISBN:9784335551338

門林道子 『生きる力の源に―がん闘病記の社会学』 青海社　2011　ISBN:978490224

上記のほか、授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K40101]

科目名: Global Sociology／グローバリゼーション **担当教員: 野宮 大志郎**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 火3 配当年次: 3･4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K401

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:59 更新者: AA1539 更新日時: 2024-01-09 15:01:23

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

グローバリゼーション論は、近代世界を支配した国家の枠組みが次第に溶解していくこと、「国際関係的」理解にかわって「地球的＝グローバルな」理解が必要とされる時代に入ったと主張する。一方、市民社会は国家（the state）が作り出す社会空間に対置した「市民」の自発的な社会空間が存在すると論じる。そうした市民社会を具現化したものとしてNGO活動や市民運動などがよく議論される。近年は「グローバル/国際市民社会（Global/International Civil Society）」を論じる研究が急速に増えた。グローバル化の影響のもと、それまで国境の中に閉じ込められていた市民社会もグローバル化している、とするものである。2003年初頭のイラク戦争反対運動や「世界社会フォーラム」さらには地球環境運動や人権運動がその例としてよく取り上げられる。とはいえ、「グローバル市民社会」には疑問の声もある。確かに、さまざまな領域で国境を越えてNGOsや運動団体が活動する時代になった。他方、「グローバルな市民社会」が真に存在するのかについては、十分な議論がなされていない。本講義では、市民社会とグローバリゼーションの両方の概念に触れ、こうした議論へ向けての端緒を見つけ出す努力をする。

科目目的

本科目では、グローバル化に関する専門的知識を獲得することと、グローバル化がもたらす諸問題について市民の立場から議論し、行為する規範的能力を養うことを目的とする。前者は、グローバル化とは何かを理解すること、次に、そのグローバル化がどの局面でどのように現れているかを政治、環境、経済の三領域での事例を使って理解することで達成する。後者は、グローバル化が引き起こす政治、環境、経済問題に対して、受講生各自が市民の立場から同対応するかを批判的に思考する機会を授業中に設けることによって達成する。

到達目標

本科目では、専門的学識の獲得、幅広い教養、主体性を受講生各自が身につけることが到達目標です。まず専門的知識として、グローバリゼーションの定義やそれが現実に引き起こす諸問題についての知識を獲得します。グローバル化が進む今日においては、この知識は、現代に生きる人間に必要な幅広い教養ともなります。最後に、グローバル化がもたらす問題について、どのようにすればこれら諸問題の解決を導き出すことが出来るかを、一般市民の立場から受講生各自が考えること、また自主的に学習した結果をクラスでプレゼンする課題を課すことで、主体的な思考と活動を促します。

授業計画と内容

＜イントロダクション＞
１（　）オリエンテーション/イントロダクション

＜グローバリゼーションとは＞
２（　）グローバリゼーションとは：歴史的理解
今週の宿題：必読文献①を読む
３（　）グローバリゼーションとは：概念的理解、野宮2004、四つの概念化
今週の宿題：必読文献②を読む
４（　）グローバル市民社会の登場：野宮2015、グローバル市民社会
今週の宿題：必読文献③を読む

＜地球規模の環境問題の発生＞
５（　）何が今、問題なのか？シバとバーロウの対話
Democracy Now 2011
６（　）国際環境政策の抱える問題：COP15、野宮 2009
７（　）学生プレゼン：
（１）２０１１年日本の反原発運動＆代替エネルギー
（２）地球温暖化を止める：京都議定書とNGO
今週の宿題：必読文献④を読む

＜政治の変容：国家からグローバルな世界へ＞
８（　）近代国家の出現と溶解：国家を相対化する、野宮の「世界史」、
Cohen&Kennedy 2000
９（　）国家vs未成熟な市民社会：1950sそして2011、日本の反原発運動（野宮2011）、
2003年イラク戦争反対運動（野宮 2005）
１０（　）学生プレゼン：
（１）国境を越えて連帯する（Zapatista）

（２）国家の行為へ反対する沖縄反基地闘争
今週の宿題：必読文献⑤を読む

＜新たな経済問題の発生＞
１１（　　）経済GLとは？：資本主義、ネオリベラリズム、Bourdieu, Jeorge, Waquant, etc
１２（　　）ネオリベラリズム政策の帰結：インドの農民と自殺、Democracy Now 2011
ネオリベラリズム政策執行機関への対抗：反WTO運動、G8対抗運動
野宮 2008, 石見＆野村 2004など
１３（　　）学生プレゼン：
（１）ジュビリー2000
（２）貧困、労働者のデモ2011

＜Wrap Up＞
１４（　　）質問と期末エッセイの執筆・提出

授業時間外の学修の内容

- ✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✔ 授業終了後の課題提出
- ✔ その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

毎週、指定したテキストのリーディング課題があります。また、5回のレポート提出に向けて、さらなるリーディングとライティング課題が出ます。最後に、自ら学習した成果をプレゼンするために、授業時間外で準備を行います。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	30%	・５つの必読文献の論点要約をします。 ・１つの文献に付きA4で1500字から2000字（タイプ）で論点を要約します。宿題が出た週の翌週の授業開始時に提出します。
期末試験	40%	期末エッセイを書きます。
レポート	0%	
平常点	15%	授業参加の積極性を評価します（ディスカッション＋質問＋コメントなど）。
その他	15%	グループ・プレゼンにて、クラスへの貢献度を評価します。

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

- ✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✔ その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

宿題レポートは、毎回、提出者各自にフィードバックを行います。また最終エッセイでもフィードバックを行います。自主学習に基づくプレゼンについては、授業時間内外を問わず、必要に応じてフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✔ PBL（課題解決型学習）
  反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✔ ディスカッション、ディベート
  グループワーク
- ✔ プレゼンテーション
  実習、フィールドワーク
  その他
  実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

グローバル化がもたらす諸問題をどのようにして解決するかについて、常に思考を張り巡らす授業内容です。課題解決に向けた態度を養います。また、時折、スクランブル形式でグループディスカッションやグループワークを行います。また、学生の主体的学習によるプレゼンテーションを行います。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
- ✔ その他

実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaやその他オンライン面談など、学習支援を行います。

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

必読文献：
①カックイン他「1章グローバル化する社会」inヘルド編『グローバル化とは何か』2002.
②野宮「11章グローバル市民社会」in 吉川元他編『グローバル・ガバナンス論』2014.
③毛利「第４章地球環境とNGO」in 馬橋他編『グローバル問題とNGO・市民社会』2007.
④野宮「１章サミットプロテストの登場と発展」in 野宮他編『サミット・プロテスト』2016.
⑤佐久間「９章社会運動のグローバル化」

参考文献：
・コーエン＆ケネディ. 『グローバル・ソシオロジー』 2003 (2000)
・目加田説子. 『国境を越える市民ネットワーク』. 東洋経済　2003
・野宮大志郎. 『社会運動と文化』. ミネルヴァ書房. 2002
・Daishiro Nomiya. "Under a Global Mask: Family Narratives and Local Memory in Global Social Movement in Japan." in Societies without Borders 4:117－140. 2009
・マンフレッド・スティーガー『グローバリゼーション』 (2011) 岩波新書

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K40201]

科目名: Visionary Sociology／理論社会学 **担当教員: 矢野 善郎**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 月4 配当年次: 3･4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K402

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:01:59 更新者: AA0328 更新日時: 2024-01-07 11:01:01

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この講義は，社会学のもたらすVisionにこだわった，英語での参加型講義科目となります。
社会学は，日常生活を変える様々な視点insightsをもたらしてくれる科学ですが，この講義では，なかでも最も重要なinsightsを身につけ，それがどのように次の時代の社会を切り拓くvisionsをもたらしているかについて考察していきます。
ただし受身の教壇型授業でなく，特徴として，能動的な参加，応用と発信にこだわりたいと考えています。受講者は，実際にinsightsを自分で用いられるように仲間とのディスカッションなどを通して練習し，最後には自分なりのvisionを，英語を用いたvisionaryな作品（動画等）として発表する先導者Visionaryとなることを目指します。
なお講義部分は，英語で行いますが，できるだけ英語理解の差を埋められるよう，受講者同士（＋教員）がバディーとなるような助け合いタイム（そこは日本語も利用可）を設けます。
未来の社会のVisionaryとなるような新しい講義を作ってみませんか。

科目目的

社会学に必須の視点Insightsから複眼的思考を養い，社会学がもたらす様々なVisionsについての専門的学識と幅広い教養を身につけるだけでなく，主体的なディスカッションを通して，自らの理論的なVisionを進化させ，それを作品化・発表するコミュニケーション力を身につけることを目的とする。

到達目標

社会学に必須の視点Insightsから複眼的思考を養うこと
社会学がもたらす様々なVisionsについての専門的学識と幅広い教養を身につけること
自らの理論的なVisionを進化させ，それを作品化・発表するコミュニケーション力を身につけること

授業計画と内容

1. Introduction Sociological Insights & Visions 社会学の視点とビジョン

Insights
2. Social Order vs (Economical) Choice 社会秩序
3. Social Constraints vs Bio-Psychological 社会的拘束
4. Sociological Interaction and Process 相互行為・社会的経過
5. Preparing your own Visions. 学期末発表に向けての予備準備

Visions
6. Social Reality and Categories
7. Social Inequality and Reproduction
8. Self and Identity
9. Preparing your own Visions 2. 学期末発表に向けて中間発表

Visions 2
10. Interpretation of "Cultures"
11. Habitus and Social Selection
12. Social Rituals and Situations
13. Your Sociological Visions 1 英語動画作製 or 口頭プレゼンテーション
14. Your Sociological Visions 2

※ 受講者人数，受講者の理解到達度により，適宜予定を組み替えることがあります

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

プリント・スライドなどはmanabaにて配布します。授業前にダウンロードして予習してください
学期末発表のほか，ディスカッションでのネタなどを考える宿題がちょくちょく出ます

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	35%	学期末発表（動画など）を作製し，実演すること
平常点	65%	授業中に出すディスカッションへの参加，小課題提出（Manabaなどで提出）
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

✔ PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
✔ ディスカッション、ディベート
✔ グループワーク
✔ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

すべての回でスライド等で授業理解の補助を図ります。manabaでフィードバックを行います

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

プリントを配ります。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K40301]

科目名: Clinical Sociology／臨床社会学／現代社会研究(6) **担当教員: 天田 城介**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 火4 配当年次: 3･4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K403

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:02:00 更新者: AA1538 更新日時: 2024-01-10 09:25:09

履修条件・関連科目等

2021年度以降の入学生は、本科目は選択必修科目になります。202年度以降の入学生は、Clinical Sociology、Global Sociology、Visionary Sociologyのいずれかを受講することが修了要件になりますので、どうぞよろしくお願いします。それ2020年度以前の入学生も履修可能ですが、2023年度以降は主として英語を用いた科目となっていますので、ご注意ください。

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この科目は、今日のポスト経済成長時代における少子高齢化／人口減少社会を背景に生じているさまざまな現実を踏まえつつ、それらの歴史的・時代的文脈をおさえつつ、それらを臨床社会学の視点ではどのように捉えることができるかを、「英語」を用いて思考していきます。英語を通じて臨床社会学の視点を習得することで、より複眼的かつ多角的に現実を捉えていきます。

科目目的

現代社会における少子高齢化／人口減少社会を背景にポスト経済成長時代において生じているさまざまな現実を臨床社会学の視点から解読することを目的とする。また、英語を用いて「臨床社会学」の視点を習得することがより複眼的かつ多角的に現実を捉えていくことも目的にしています。
英語を用いて、臨床社会学の視点で私たちの社会において生じている諸問題／諸現象を読み解くできることになることを到達目標とする。

到達目標

①超高齢社会／人口減少社会において立ち現れている諸問題・諸現象について経験的データをもとに微細に読み解くことができる。
②当事者たちが直面している問題や困難を臨床社会学の視点から緻密かつ詳細に読み解くことができる。
②老いや高齢化をめぐる諸問題・諸現象を微細な観察をもとに分析すると同時に、私たちがなしうる社会的実践を考察することができる。

授業計画と内容

第01回 ガイダンス、臨床社会学の試み・1
第02回 臨床社会学の試み・2――当事者の世界から理解する
第03回 自己のまなざしを形成する社会
第04回 アイデンティティ・ゲーム――必死にメンテナンスされるアイデンティティ
第05回 社会学者もまた自分自身の世界を生きる
第06回 臨床から見える社会・1 「介護殺人事件の世界」を読み解く・1
第07回 臨床から見える社会・2 「介護殺人事件の世界」を読み解く・2
第08回 臨床から見える社会・3 「老夫婦心中事件の世界」を読み解く・1
第09回 臨床から見える社会・4 「老夫婦心中事件の世界」を読み解く・2
第10回 臨床から見える社会・5 「夫の死に気づかぬ認知症の妻の世界」を読み解く
第11回 臨床から見える社会・6 「消えた労働者の世界」を読み解く・1
第12回 臨床から見える社会・7 「消えた労働者の世界」を読み解く・2
第13回 臨床社会学の可能性と困難
第14回 総括・まとめ
(上記は全て英語にて講義を行います)

授業時間外の学修の内容

✔ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
✔ 授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業前にその前の回に配布した資料やレジュメに必ず目を通した上で出席すること。また、授業の最後に提示する課題に必ず取り組むこと。加えて、授業で紹介した参考文献等も積極的に読み込むようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。

・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	85%	小レポート（45%）＋学期末レポート（40%）で評価します。授業終了後の指定日時までに提出する小レポートを期間中3回実施します。また、学期末レポートは4,000字以上のものになります。
平常点	15%	コメント・ペーパーなどを平常点（15%）とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準（備考）

小レポート（45%）、学期末レポート（40%）、平常点（15%）をスコア化して、厳正に評価します。

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
✔ ディスカッション、ディベート
✔ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
✔ タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

manaba掲示板、C-plusのメール等で情報共有・補助的な議論を行います。

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業内容については資料やレジュメを毎回配布しますので、テキストは使用しません。参考文献は毎回レジュメ等で示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K40401]

科目名: Social Issues **担当教員: 曺 三相**

履修年度: 2024 学期: 後期 開講曜日時限: 金2 配当年次: 3･4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K404

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:02:00 更新者: AC8575 更新日時: 2024-01-08 21:54:07

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

English

授業の概要

This course will cover the scientific methods that are used in attempting to explain the social issues that human beings have created. Subject matters include human evolution, culture, social system, personality, nature vs. nurture, socialization, deviance, economic inequality, minority, pluralist society, aging society, gender, modernization, and the environment. The students will be asked to assess the subject matter in relation to your own life and community.

科目目的

This is a course designed to provide the students with an introduction and overview of the social science disciplines. Another purpose is to help the students sharpen their "skills" as a critical thinker, an analyst, and an effective communicator.

到達目標

Students will acquire familiarity with key concepts and approaches developed by scholars and practitioners in social science in order to make sense of our world. It is hoped that by the end of the semester you will find the course to be informative, interesting and enjoyable.

授業計画と内容

第 1 回 Introduction
第 2 回 The Beginnings of Life
第 3 回 Culture: Product and Guide to Life in Society
第 4 回 Group Interaction: From Two to Millions
第 5 回 Becoming a Person: The Birth of Personality
第 6 回 Deviance and Criminality: The Need for Social Control
第 7 回 Mid-term Exam
第 8 回 The Great Divide: Ranking and Stratification
第 9 回 Minority Status: Age, Gender, and Sexuality
第 10 回 Minority Status: Race and Ethnicity
第 11 回 Change and Collective Behavior
第 12 回 Social Movements
第 13 回 Population, Urbanization, and Environment
第 14 回 Conclusion and Summary

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

Students are required to complete the readings prior to class meetings and to come to class ready to discuss them. I expect everyone to participate actively in the discussion of the day. Every student should be able to summarize, analyze, synthesize, and evaluate each assigned reading by addressing the following questions:

i. What is the author's purpose?
ii. What is the basic theme(s) or argument(s) of the reading?
iii. What are the most important historical events, information, concepts, etc. discussed in the reading?
iv. How does this reading relate to the other readings and to the central themes of the course?

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	35%	Exam will consist of definition of concepts or terms and short essays. Exams will cover the materials presented in lectures, discussions, and readings. You should demonstrate the knowledge you have acquired in the assigned readings and class discussions, as well as your thoughtful consideration and analysis of the material.
期末試験	35%	Exam will consist of definition of concepts or terms and short essays. Exams will cover the materials presented in lectures, discussions, and readings. You should demonstrate the knowledge you have acquired in the assigned readings and class discussions, as well as your thoughtful consideration and analysis of the material.
レポート	0%	
平常点	30%	In order to get the most out of class, you must be prepared when you come to class.
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

Your grade will be based, not on how well you do compared to others in the class, but on the quality of substantive knowledge, quality of analysis, and effective communication demonstrated--in other words, the level of understanding demonstrated.

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
✔ ディスカッション、ディベート
グループワーク
✔ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他
✔ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

✔ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

Sam-Sang Jo received Ph.D. in international studies from the University of South Carolina. He was visiting scholar of East-West Center in Hawaii, Chinese Academy of Social Science, University of Cambridge, Fudan University, Tohoku University, and University of Tokyo. He was also visiting scholar of East-West Center in Hawaii, Chinese Academy of Social Science, University of Cambridge, Fudan University, Tohoku University, and University of Tokyo. He has taken courses, conducted research in, or otherwise visited for professional or personal purposes, America, Britain, France, Germany, Denmark, Sweden, Austria, Russia, Poland, Hungary, Belgium, Switzerland, Italy, China, South Korea, Taiwan, Hong Kong, Indonesia and Costa Rica. His teaching and research interests cover regional integration, international cooperation, Western European politics, East Asian politics, comparative analysis of Europe and East Asia, and US foreign policy. He is an author of European Myths (2007). His publications have appeared in such scholarly journals as Japanese Journal of Political Science, Asia Europe Journal, Journal of Contemporary European Studies, Northeast Asian Studies (Tohoku University), Korea Observer, Korean Journal of Political Science, 中央大学 紀要 社会学・社会情報学, 中央大学 社会科学研究所年報 and so on. He has received several merit-based fellowships, awards, grants and prizes.

実務経験に関連する授業内容

Sam-Sang Jo is currently teaching at Chuo University and International Christian University as well. He had taught at Graduate School of International Relations, Pusan National University, Graduate School of International Relations and Diplomacy, Beijing Foreign Studies University, Monmouth College and University of

South Carolina.

テキスト・参考文献等

John A. Perry and Erna K. Perry. 2016. Contemporary Society: An Introduction to Social Science. (14th Edition) New York: Routledge.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

[1E0021K40501]

科目名: Debate **担当教員: 矢野 善郎**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 月4 配当年次: 3･4年次配当

科目ナンバー: LE-SC3-K405

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:02:00 更新者: AA0328 更新日時: 2024-01-07 11:01:27

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

✔ 日本語
英語
ドイツ語
フランス語
中国語
その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この講義では，異なった立場との違いを理解し，その違いを鋭く言明していくような議論を，広く ″Debate″ と呼び，それを最終的には英語で行えることを目的として，参加型でトレーニングすることを目指しております。

現代社会では，様々な公的な意思決定，科学的討論，様々な価値観の擁護・多文化共生のためにも，こうしたDebateは不可欠と言えます。この講義では，Debateという議論の特徴やその活用方法を，初歩から実践的に練習していきます。

この講義では，英語ディベートの練習を行うことになりますが，誤解無く申せば英語科目（という外国語を習得することを第一の目的とする科目）という訳ではありません。試合形式等を通して，英語ディベートの運用能力を徐々にブラッシュアップすることをめざしますが，その準備過程では日本語での説明や打ち合わせなどをすることはまったく問題ないと考えております。また社会学専攻の科目でもあるので，討論の素材に社会的な問題を幾つもとりあげ，社会的な学びであることも目指しております。

講師（矢野）は，30年にわたり英語ディベート教育・指導に関わってきましたが，その経験から，日本で生まれ育った人間でも，適切に事前に準備さえすれば，英語ネイティブとも対等にDebateできるようになると確信しております。余計な苦手意識を少しでも取り除き，議論を楽しみながら，実際に役に立つような英語運用能力を身につける場にしたいと考えております。

科目目的

立場との違いを理解・言明していくような議論 ″Debate″を最終的には英語で行えることを目的とします。現代社会では，様々な公的な意思決定，科学的討論，様々な価値観の擁護・多文化共生のためにも，こうしたDebateは不可欠と言えます。この講義では，そうしたDebate能力の訓練を通して，様々な意見を交わすことを通して複眼的思考を養い，議論をリードする主体性と社会的なグローバルなコミュニケーション能力を身につけることを目的としています。あわせてDebateという議論の社会的な機能についての専門的学識を身につけ，議論実践を通してとりあげる社会的な問題についても幅広い教養を身につけられることも大事な目的となっています。

到達目標

主体性をもって様々な議論をリードし，社会に出てから必要なグローバルなコミュニケーション能力を身につけること。そしてDebateという議論の社会的な機能についての専門的学識を身につけ，議論実践を通してとりあげる社会的な問題についても幅広い教養を身につけ，様々な意見を交わすことを通して複眼的思考を養うこと。

授業計画と内容

1. What is Debate? ディベートとは何か
2. Reasoning and Evidence 議論の理由付けと証拠
3. Proving issues 争点の作り方
4. Policy Proposal 1 政策提案
5. Policy Proposal 2
6. Mini Debate 1 ディベート形式にチャレンジ
7. Mini Debate 2
8. Asking Questions 質問力を鍛える
9. Policy Debate 準備
10. Policy Debate 1
11. Policy Debate 2
12. Policy Debate 3
13. World-making 1 新しいコンセプト（世界）を作る
14. World-making 2

※参加人数や，英語などの習熟度などにより，適宜予定を入れ替えることがあります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
✔ その他

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

授業で行う，様々なプレゼンテーションやディベートについて準備・練習してくる宿題や，他人への講評・自身の議論の振り返りの宿題がでることがあります。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

・毎週１回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。１週間あたり４時間の学修を基本とします。
・毎週２回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。１週間あたり８時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準（中間試験，期末試験，レポート，平常点，その他）

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	25%	・各人に割り振られたプレゼンテーションやディベート準備 ・各人の実習の適切な振り返り
平常点	50%	・各回の質問・発言の積極性
その他	25%	・グループ活動での受講生各自の貢献の程度 ・グループ活動全体の活発性

成績評価の方法・基準（備考）

課題や試験のフィードバック方法

✔ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
✔ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法（その他）

アクティブ・ラーニングの実施内容

✔ PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
✔ ディスカッション、ディベート
✔ グループワーク
✔ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
✔ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

発表や実習では，利用者にスライド活用を求めます。リサーチ・ICT教育も兼ねています。スライド等で授業理解の補助を図ります。manabaでフィードバックを行います

実務経験のある教員による授業

はい
✔ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

プリントを紙やmanabaを通して配ります。

オフィスアワー

その他特記事項

英語力・経験は問いません。英語に自信のない人，ましてやディベート・議論体験したことない人，もちろん歓迎（課題・

チーム分けで配慮します）

参考URL

備考